

平成31(2019)年度 江戸川区立新堀小学校 学校関係者評価 中間評価用報告書

学校教育目標	進んで考え 学び合う子 心ゆたかで 思いやりのある子 健康で たくましい子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・子供と教師がかがやき意欲みなぎる学校・保護者や地域から信頼される学校 ・自ら考え、人と協働できる心ゆたかな子供 ・他者を理解し、自己理解を深める子供 ・教育者としての志を高くもち、子供の心を大切に、生きる力をはぐむ教育を実践できる教師
--------	---------------------------------------------	----------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

前年度までの学校経営上の成果と課題	<p><成果> 特別の教科としてスタートした道徳の指導法を研究し、授業改善を図ることにより、教師が指導法の基礎を身に付け、道徳の授業の充実を図れた。組織的にゲストティーチャーを活用した授業を計画・実践し、外部の人材の教育力を生かしたカリキュラム・マネジメントを実現できた。</p> <p><課題> 学習指導要領に基づき教育課程を編成し、教科等や学年を越えた組織運営の改善をすることで、教育活動や組織運営などの学校の全体的な在り方を改善する。子供が自ら学び続ける力をつけ、主体的・対話的で深い学びを実現することで、学力向上に向けた成果をあげることが課題である。</p>
-------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	春江小学校授業参観から、連携プログラムを改善する。	小中連携を意識して授業づくりをした教師…90%以上	B	C	連携プロの共通理解はできた。	B	成果が見えにくい。	HPにのせる。
	道徳教育の推進	特別の教科「道徳」の授業力の向上 自己を見つめる時間の充実	校内研究を中心とした研修及び授業の実践	道徳授業に意欲的な児童…90%以上	B	B	道徳好きな児童が増えた。	A	授業力が高まった。	別業を作成し評価に生かす。
	ゲストティーチャーを活用した本物の体験	ゲストティーチャーを活用した授業の充実 本物に直に感じることに児童の健全育成	ゲストティーチャーを活用した授業及び校外学習の実施	本物に触れる体験に、感想を表現できる児童…90%以上	A	A	授業後の児童の感想の質が上がった。	A	今後も続けてほしい。	豊かに表現できる力をつける。
	特別活動の充実	多様な他者と協力し合ったり、助け合ったりすることにより、よりよい人間関係を築こうとする態度の育成	自主的・実践的な集団活動を年5回以上の実施	縦割り班活動にねらいをもって参加する児童…90%以上	B	B	高学年の意識がとて高まった。	B	地域でも生きる力になってほしい。	他の人のために動ける力をつけたい。
教員の資質向上	教員研修の充実	教育相談、児童理解、特別支援教育、道徳、学級経営、情報教育、剛毅教育の研修を実施する。	学級経営について、Q-U研修を年間3回開き、学級を改善する。	居心地のよいクラスづくりのできる教師…90%以上	B	B	高学年に満足度の高い学級が増えた。	B	学級経営の指導力をつける研修の充実をさらに図ってほしい。	OJTを主体的にできるように組織を編成する。
	特別支援教育の更なる充実	支援を必要とする児童に対して、エンカレッジルームを活用して巡回指導や相談を含む支援の充実	連携機関と協力し、インクルーシブ教育を展開する。	インクルーシブ教育の効果が見えた教師…90%以上	A	A	専門員、SCと担任との連携が良かった。	A	組織的取組は素晴らしかった。	さらに効果が出るように連携を深める。
	日常的なOJTの充実	ミニ研修会を活用し、誰もが教える側と教えられる側を体験する研修の実現	若手教員の育成を主眼としたミニ研修会を年5回以上行う。	児童の指導に研修内容が役立つと感じた教師…80%以上	B	B	道徳の研究は学びが大きかった。	B	自己研さんを続けてほしい。	主体的な研修が実施できる体制を整える。
	学校運営について一人一人の体験重視	学校全体で取り組む課題を発見し、企画・運営の仕方を身に付ける教員の育成	一人年間1回以上、学校全体に活動の提案をする。	企画力が身に付いた自信がもてた教員90%以上	B	A	一人一役で責任をもつことができた。	A	企画力が身に付いた教師が多かった。	組織力をあげるための組織づくりを行う。
いきいきと学ぶ教育の充実	確かな学力の向上	「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	国語や算数における重点目標を設定し授業や補習で実施する。	各教科、各学年ごとに指導計画の改善を行う。	B	B	一部の子どもの伸びが見られた。	B	今後の取組に期待している。	児童自身が実感をもてるようにする。
	読書科の更なる充実	学校図書館の整備・活用の推進や探究的な学習の充実	図書館の蔵書の整理・分配比率を意識した本の選定、準備室の活用	社会・理科の本の分配比率を上げる。準備室を子どもが使える環境にする。	B	B	研修などを実施することで、探求学習を実施することができた。	B	蔵書を増やしてほしい。	環境づくりと授業力を高める
	体力の向上	体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	休み時間に児童が意欲的、主体的に外で遊ぶ環境を作る。	中休みに外遊びをする児童…95%以上	A	B	運動遊びで児童が外遊びをするという成果を得ることができた。	B	体力が大事であるので、今後も高めていってほしい。	日常化への工夫を行う。
	オリパラ教育の推進	「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」の3つの視点を踏まえた取組の充実	3つの視点を育む公開講座や、職員室前に資料を掲示する。	公開講座…年3回	A	B	職員室前の掲示の充実を図れた。公開講座で児童の関心を高めることができた。	B	ゲストティーチャーは良かった。	レガシーの中のボランティア精神を中心にすすめる。
	外国語教育の推進	授業力の向上とALTの効果的な活用	OJT研修を実施し、児童が意欲的に学習に取り組める教材の開発	外国語活動が楽しいと感じる児童…85%	C	B	特に高学年は授業づくりが上手になった。	B	環境作りもがんばってほしい。	研修を重ねる。
	意欲の向上	学習や学校行事に対する意欲の向上	学習に関するアンケートを2、3学期に、行事に関するアンケートを行事ごとに実施	各アンケートで意欲的に取り組んでいる児童…85%	B	B	行事への意欲は高めることができたが、学習には課題が残った。	B	行事はどれも素晴らしかった。	授業に関するOJTを行い、授業力を高める。
	健全育成相談体制の充実	QUを生かした学級経営の改善、学級会の充実 ルールとリレーションの構築	QU調査の分析、対策の共通理解人間関係づくりの取組 学級会の研修	自分のよいところを言える児童ルールが守れる児童…90%以上	B	B	QUを回実施すること、研修を行うことで教員の理解を高めることができた。	B	健全育成は家庭とともに、しっかりと行ってほしい。	学んだQUを日常に生かす研修を行う。
開かれた学校安心・安全な学校づくり	いじめのない人間関係づくりの推進	生活指導の全校体制の充実 思いやりの心の育成、早期発見・早期対応・早期解決	児童理解の力を付け、協働して問題解決にあたる体制づくり 人権を意識した活動	児童の問題解決100%相手の気持ちを考えている児童80%以上	A	A	迅速な対応の大切さを実感し、意識して行うことができた。	A	子どもを理解してあげてほしい。	引き続き、早期発見に努める。
	学校応援団、地域との連携	学校応援団との協力体制の向上 PTA、お父さんの会との連携の充実	学校応援団名簿の作成 行事等におけるPTA、地域との協働	学校応援団の連携がとれていると感じる保護者90%以上	A	A	地域との連携はとてよくできた。	A	さらなる拡大を期待する。	参加人数を増やす。
	危機管理意識の向上と連携	報告・連絡・相談の徹底と、問題点の共有、職員集団の協力体制の強化	報告・連絡・相談の徹底による、教職員集団がチームとして問題解決にあたる	危機管理意識の向上を実感する教員…90%以上	A	A	報連相の徹底をおこなうことができた。	A	学校と地域の協力を今後も高めていってほしい。	事例研修をさらに充実させる。
	施設設備の安全点検の充実・防災意識の向上	教育委員会と連携した施設設備の安全管理実施 地域との防災訓練の実施・避難訓練の充実	早期発見・早期対応 地域との連携	施設設備の改善が適切に実施されていると感じる保護者80%	B	A	全国大会に向けて適切に行われた。	A	防災訓練が進歩した。	児童の意識の向上を目指す。

